

# 決算審査特別委員会視察報告書

【令和6年10月15日】

視察日 令和6年10月15日(火)

## 視察地及び班編成

### 第1班

- ・視察地 勤労福祉会館／特別養護老人ホーム 文京くすのきの郷
- ・班長 海津 敦子 委員
- ・班員 市村 やすとし 委員、金子 てるよし 委員、松丸 昌史 委員、宮崎 こうき 委員、田中 香澄 副議長

### 第2班

- ・視察地 スターチャイルド学童クラブ 千駄木校／文京宮下公園
- ・班長 のぐち けんたろう 委員
- ・班員 名取 颯一 委員、小林 れい子 副委員長、浅田 保雄 委員、宮本 伸一 委員、高山 泰三 委員

### 第3班

- ・視察地 学びの居場所架け橋計画 第一中学校／白山育成室
- ・班長 依田 翼 委員
- ・班員 松平 雄一郎 委員、浅川 のぼる 委員、千田 恵美子 委員、上田 ゆきこ 委員長、ほかり 吉紀 委員、白石 英行 議長

## 視察報告内容

### 第1班

#### 1 勤労福祉会館

文京区勤労福祉会館は、区内の勤労者や住民の福祉向上と地域の活性化を目的とした施設である。令和5年度には体育館部分の外壁及び軒樋（のきどい）の塗装工事が実施され、会館内の視察も行った。

会議室、ホール、和室、多目的室などは、区内外の利用者が低価格で利用できる点が魅力だが、その一方で体育館等の予約の取りづらさが課題となっている。

また、施設の老朽化への対応が急務であり、特にユニバーサルデザインの観点から、以下の改善が必要である。

バリアフリートイレの設置について、各階にバリアフリートイレがないため、使われていない給湯室を改修し、介助用ベッドを備えたバリアフリートイレを設置すること。

和室の段差解消と安全対策について、高齢者や身体の不自由な利用者のため、段差を解消し、手すりや背もたれのある座椅子を設置して安全性を向上させること。

体育館の断熱改修と空調設備について、夏の暑さや冬の寒さへの対応として、天井、壁、床の断熱化を進め、空調設備を整えること。

さらに、図書館と連結する新たな入口の設置工事においては、誰にでも分かりやすい動線を確保することが重要である。

今後、地域コミュニティの強化と勤労者支援という施設本来の役割を更に発揮するため、計画的な大規模改修の推進を要望する。

## 2 特別養護老人ホーム 文京くすのきの郷

老朽化が進んでいた「文京くすのきの郷」は、総額 38 億円を掛けた大規模改修工事が昨年 5 月に完了した。入居者が住み続けながらの改修であったため、仮設の部屋への引っ越しを何度も繰り返す必要があり、通常の運営と並行して大きな労力と配慮が求められたことが確認できた。加えて、入居者や職員の動線を考慮した工事也非常に困難であったことが分かった。

改修後、施設全体が明るくなり、個々のニーズに応じた丁寧な対応が可能になるよう工夫されたことが見て取れる。また、「看取り」に対応するため、家族が宿泊し最後の時間を過ごせる部屋も改修されていた。さらに、すべての入居者が安全かつ安心して入浴できるように各階の浴室を改修し、適切な人員体制が組まれている。

給食は直営で実施し、一人ひとりの状況に応じた食事を提供できるよう、きめ細かな設計がされている。定員は 100 名だが、現在は 97 名が入居しており、白山の郷の改修工事に伴い、希望する入居者を受け入れる協力体制があることが確認された。

ただし、各階の多目的室は、普段は十分な活用がなされていない状況もある。利用者が「自分らしく」豊かに過ごせる終の棲家として、これらの空間をより有効に活用することが期待される。

## 第 2 班

### 1 スターチャイルド学童クラブ 千駄木校

都型学童クラブ「スターチャイルド学童クラブ 千駄木校」を視察した。都型学童クラブは区の育成室では実施していない多様な保育ニーズに対応するため、都の実施要綱に基づき区から補助を受けて実施している事業である。令和 6 年 4 月に開設した同クラブは施設の保育スペースを 66.8㎡取っており、一人当たり 1.65㎡以上である区の保育基準によると定員 40 名受け入れられるが、現在は 1 年生 13 名、2 年生 3 名、4 年生 2 名の計 18 名の保育を行っている。公設育成室との違いでは、英語の授業や保育途中での習い事への送迎、有料ではあるが夕食の提供、小学 6 年生までの保育などを行っている。また保護者の要望に応じて最大 21 時まで延長保育を行っている。近隣の 2 公園で外遊びも実施しており運動機会も確保している。

令和 6 年 10 月現在、常勤職員 2 名非常勤職員 8 名体制であるが人材不足は課題である。保育士の質の向上のための区職員の巡回指導も随時行っている。

千駄木地域の育成室待機児童解消対策として開設された同クラブであるが、今後とも多様な保護者の要望に答えられるような都型学童クラブも増やされたい。

## 2 文京宮下公園

昭和 41 年に区立公園となった宮下公園は、文京区公園再整備基本計画に基づき、令和 5 年度に再整備工事が完了した。

工期は令和 5 年 3 月から令和 6 年 3 月。工事費は約 2.4 億円。一般競争入札に 6 者の参加があり落札された。再整備に際し、令和 2 年 7 月から計 4 回にわたり意見交換会を開催し、アンケート調査も公園周辺約 1,950 戸、近隣保育所、地域活動センター、公園内で行い、広く地域住民の声を集めることに努めたとのこと。

主な意見として、遊具をはじめ施設の老朽化、木が多いことで暗く見通しが悪い、遊び場が狭い、トイレが和式のまま、防災機能をつけてほしいといった声があったとのこと。

こうした意見を踏まえ再整備を行い、見通しが良くなり、広いスペースも確保され、マンホールトイレや防災井戸など防災機能も整備された。樹木は健全度が低いもの、混み合ったものを伐採し、季節を感じられる多様な樹木が新たに植栽された。ボール遊びの既存施設も塗装をやり直し、バスケットゴールとサッカーゴール

とともにサッカーゴール裏に防音対策ネットを設置し、充実していることを確認した。

地域の声をしっかり反映し充実した公園再整備となったこと評価したい。引き続き、公園再整備に際しては、地域住民の声を広く聴取して反映していただきたい。

## 第 3 班

### 1 学びの居場所架け橋計画 第一中学校

令和 5 年度から不登校対策の 1 つとして校内の別室での支援が始まった。「ステップ教室」と書かれた小部屋はブース形式になっており、プライベート感のある空間で過ごせるつくりになっている。今年度からは、隣接する部屋の一角にも拡張した。この場に通う生徒は指導員の手を借りながら勉強をしたり、時にはゲームや会話を楽しみながら過ごす。

田島校長によれば不登校の未然防止、早期対応、長期対応のどれにも対処できる優れた仕組みだとの評価だった。実際、同校の不登校率は令和 5 年度の 15.9%から令和 6 年度には 6.4%に改善した。特別な能力がある「ギフテッド」の子の利用のほか、結果的に特別支援学級に移ることで毎日学校に行けるようになった生徒もいたとのことだ。別室利用を通じて個人の最適な学びや居場所を見つけられたことは評価したい。

令和 6 年度時点では区内 6 小学校 6 中学校で別室が設置されている。1 学期末の別室の在籍者数は 110 人と前年度 3 学期末の 103 人から増加している。人材や場所の確保に課題はあるが、この取り組みを速やかに区内全校に広げてもらいたい。

### 2 白山育成室

令和 6 年度に開設した小規模育成室（学童保育）で、指ヶ谷小学校の児童が通う。在籍児童は 14 人で、最大定員は 25 人程度を想定している。職員は常勤 3 人、非常勤 6 人と基準よりも手厚く配置している。

育成室の待機児童の増加を受けて区が始めた「育成室待機児童解消加速化プラン」に基づく新設育成室の一つ。蓮華寺という寺の一角を改装して設置したのが最大の特徴だ。時間帯によっては寺の境内を使った外遊びも可能となっている。デジタルツールを使って入退室の管理をするなど保護者の安心確保にも努めている。

学校の長期休暇中の昼食に関して、区が新しく始めた仕組みを導入しているのも特徴だ。従来は父母会が弁当の個数の取りまとめや支払いの管理をしていたが、民間の弁当宅配会社の利用によって同社と各保護者との直接のやり取りとなり父母会の負担が軽減された。

待機児童数は現状 70 人台まで減少しているが、予断を許さない状況だ。短期間での施設整備や物件確保によるコストの増加をできる限り抑えるよう努力しつつ、前例にとらわれない工夫をしながら引き続き積極的に育成室の整備を進めていってもらいたい。